



引っ越しました！

〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原3-18-10

TEL: 080-7968-0059

E-mail lgjkanakura@nifty.com

<http://www.lovegreenjapan.org/>

発行者 碓 賢治 編集責任者 鈴木 倫子

## 設立30周年を迎えました！



有機農業研修に参加するアナイコットの住民たち

新理事長 碓 賢治

当団体が皆様のご支援・ご協力により、設立30年という節目の年を迎えることができました事、大変うれしく思います。

私とネパールとの関わりは、1989年10月、国際協力事業団の専門家として、カトマンズに2年間派遣されてから始まりました。その時、日本の商社でネパール現地事務所代表のアミーラ・ダリさんと知り合いました。彼女は学校建設などのODA事業を手がけておられましたが、特に、農村部の女性の教育や環境保全に力を尽くしていきたいとの相談を受けました。この出会いがきっかけとなり、1991年、アミーラ・ダリさんの働きかけにより、ネパールの自然環境の保全・改善に寄与することを目的として「ラブグリーンネパール」が発足しました。

日本では、ラブグリーンネパールを支援するNGOを設立するべく、私と相川政夫が中心になり、同年10月、ネパールの環境問題に関心のある8名の有志により「ラブグリーンジャパン」

が鎌倉で設立されました。

当初の活動は、住民への苗木配布やバイオガス装置の普及でありましたが、毎年活動内容も改善され、現在では循環型農業による土壌の改善や住民の生計向上、および安全な野菜栽培を指導できる人材育成、安全野菜を流通させるためのシステム構築など、包括的な村落開発事業を実施して、日々進化しております。

ラブグリーンジャパンの相川とラブグリーンネパールの友人との 30 年にわたる交流を通じて、ネパールのスタッフ、住民の方々と手を携えて、継続的に 30 年間活動を展開してきました。継続は力と感じております。「得がたきは時、逢いがたきは友。」と言いますが、まさに素晴らしい時と善き友人に恵まれた 30 年だったと思います。

今後、私はラブグリーンの活動を引き継ぎ、相川の志を受け継ぎ、ラブグリーンジャパンのお手伝いをしていくことになりました。引き続き皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

### 30 周年に寄せて

監事 気賀沢忠文

今年 2021 年 10 月、ラブグリーンジャパン (LGJ) の活動が 30 年目を迎えることは感慨深い思いです。また LGJ の活動を通じてネパールを訪れ、ネパールへの関心を深め、愛情を培われた数多の方々にとって、LGJ が日本とネパールの懸け橋になったこともとても嬉しいことです。

私は初期 10 年ほど LGJ の活動に関わり、視察で訪れたネパールの村の青年たちから農協を作りたいと言われたことが契機となって、定年後は JICA のシニアボランティアに応募しました。日本の農協で培った知識と経験を活かしてネパールの協同組合の育成に関わるという貴重な経験をしました。その後、私は途上国の農業協同組合の育成の専門として LGJ と共に歩んで来ました。

今年の 4 月、相川さんの訃報に接し、30 周年を相川さんともに祝うことはかなわぬことになりました。30 年間の活動を振り返るとそこには心からネパールを愛し、LGJ の活動を通じて草の根の人々の暮らしの向上に役立ちたいという熱い心を持った相川政夫さんがいたからで、大事な主役がいないことは限らない寂しさです。

この 30 年間、よいときも苦しい時もありましたが、相川さんはいつも「継続は力だ」という困難な状況を切り開いてきました。その言葉を改めて心に刻んで、新しい道を切り開いていくことが、私たちの責任だと思っています。

理事 伊藤 香純

私とラブグリーンとの出会いは、20 年前にかけた一本の電話でした。1999 年の夏、当時大学院生だった私は修士論文の調査で、海外で植林活動を実施している日本国内の全ての NGO に電話をかけて資料送付の依頼をしていました。Love Green Japan (LGJ) なんてベタな名前の団体があるものだ、と思ってかけた電話に出たのが相川さんでした。「団体の活動に興味があるのは大いに結構だが、話も聞かないで資料だけ送付しろ、というのは、人間としてどうなのか？」という相川さんからの苦言を受け止め、数日後に事務所を訪問することにしました。伝えられた住所を頼りに到着したバラック小屋のような鍼灸院のドアの前で、本当にここが事務所なのか？大丈夫なのだろうか？このまま帰ろうかと、不安に駆られたことを、まるで昨日のことのように思い出します。奇しくも、その数カ月後には、進学先の大学院でネパールの研究を

することになり、LGJ と LGN の活動に参加させてもらうようになりました。それからあつという間の 20 年でした。

私が知っている過去 20 年だけでも、非常に多くの課題に直面してきましたが、中でもここ数年は、現地での活動の柱であったサンガットさんの訃報やコロナ禍といった桁違いの困難に直面しました。これに続いたのが、30 周年記念を目前とした相川さんの訃報でした。危機的状況のように思えましたが、このような厳しい状況に置かれたことで、LGJ がこれまでに築いてきたものの輪郭が見えてきたように感じる部分もあります。

コロナ禍になり、日本人が現場に入れない状況での国際協力活動は、どのような実施団体でも苦難の連続です。現地の活動が止まらず継続できていることは、LGJ が現地の森林や環境、人々の暮らしや文化といった目に見える部分だけでなく、「自らの国や暮らしを良いものにしよう」というマインドを持つネパール人の育成に力を注いできた賜物ではないかと思えます。

この 30 年の間に LGJ が築いてきたもの、そして私達会員一人一人が LGJ から得たものを、どのような形で未来に繋いでいくのか、この 30 周年記念を機に他の会員の皆さんにも考えて頂けるといいな、と思えます。

### ラブグリーンジャパンの歩み

この間の激動する世界情勢に連動するように、ネパールの社会経済情勢の変化は設立当初の想像をはるかに超えるものでした。LGJ はその時々々のタイムリーな草の根の課題に取り組み、ネパールの人々に大きく貢献してきました。支援して下さった皆様に心からの敬意を表します。

年	出来事
1991	10 月設立
	・カブレ郡パンチカール村で調査を実施
1992	・ラブグリーンネパール/パンチカールフィールド事務所開設、研修施設及び苗床の設置
	・ラブグリーンネパール事務局長 日本招聘
1993	・学校の修復事業、有機農業研修、住民の生活状況調査
	・植林(桑等)、技術指導
	・ラブグリーンネパール職員 日本招聘
1994	・植林(桑等)、住民に対する植林技術指導、教材の作成
	・ラブグリーンネパール職員サンガット氏の日本研修
1995	・パンチカールにおいて女性たちの生活改善調査開始
	・子どもたちへの環境教育開始、植林(桑等)、住民に対する植林技術指導
1996	・ラブグリーンジャパン会員とネパールの農家でホームステイの実施
	・村の農家による<フレンドの会>発足
	・植林(桑等)、住民に対する植林技術指導、教材の作成
	ネパール政府軍とマオイストの内戦開始
1997	・植林、環境教育セミナー、植林用井戸掘り
	・バイオガス装置設置事業
	・パンチカール村ジョルパティ小学校修復工事
	・ラブグリーンネパールに 4WD 購入

1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナイコット村にて女性たちを対象とした有機農法研修実施</li> <li>・植林、環境教育セミナーの実施</li> <li>・フィリピン イフガオ族に木工支援実施</li> </ul>
1999	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンチカール村、バルワ村、アナイコット村、パトレケット村にて植林、環境教育セミナー実施</li> <li>・ラブグリーンネパール職員 日本招聘 有機農法研修を受講</li> </ul>
2000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人専門家によるネパールの大気汚染調査実施</li> <li>・パンチカール村、バルワ村、アナイコット村、パトレケット村にて植林、環境教育セミナー実施</li> <li>・パンチカール村のリーダー農民1名とラブグリーンネパール役員1名を日本に招聘し、有機農法研修を受講させる</li> </ul>
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動10周年、活動に参加したパンチカール盆地5村の優良農民を表彰</li> <li>・植林、環境教育等のセミナー実施</li> <li>・NPO 法人登録</li> <li>・相川事務局長、外務省 NGO 委員会に選任</li> </ul> <p>6月1日ネパール王族殺害事件(ビレンドラ国王・ディベンドラ王太子死亡) 11月26日 国家非常事態宣言</p>
2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治状況の悪化により活動縮小</li> <li>・住民のための有機野菜栽培、生活改善指導</li> </ul>
2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト事業評価実施。(外務省 NGO 促進事業)</li> <li>・住民のための有機野菜栽培・生活改善指導、果樹園の管理指導</li> <li>・国際協力フェスティバル参加開始</li> </ul>
2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンチカール村に女性センター建設(外務省 NGO 助成金)</li> <li>・ミャンマーとベトナムにてバイオガス装置設置事業調査</li> </ul>
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンチカール村に母子クリニック建設</li> <li>・日本ネパール友好50周年事業参加</li> <li>・ベトナムにてバイオガス設置調査</li> </ul>
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村での活動再開。バイオガス装置設置事業、有機農業支援</li> </ul> <p>11月21日 包括的和平合意成立。ネパール内戦終結</p>
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパール政府より国際 NGO として認可を受ける</li> <li>・LGJ ネパール事務所開設</li> <li>・バルプラティバ小学校建設(アナイコット村)</li> <li>・女性のための有機農業研修施設建設及び農業技術指導(アナイコット村)</li> <li>・林業専門家によるパンチカール盆地の植林事業調査</li> </ul>
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業用貯水槽と灌漑設備の整備(アナイコット村)</li> </ul> <p>5月28日 制憲議会で連邦共和制採択。王制廃止</p>
2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンティプール小学校建設(パトレケット村)</li> <li>・ミルク冷蔵設備建設(アナイコット村)</li> </ul>
2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 草の根技術協力事業「カブレ郡・シンドゥバルチョク郡・マクワンプル郡の農村開発プロジェクト」(2010-2012)</li> <li>・カリカデビ小中学校建設(シンドゥバルチョク郡クビンデ村)</li> <li>・バイオガス設置事業(パンチカール・アナイコット・パトレケット・ラビオピ・バルワ)</li> </ul>

	・ラブグリーンネパール役員 2 名 日本招聘
2011	・ジャナカルヤン小学校建設(シンドウパルチョク郡クビンデ村) ・有機農法及び家畜飼育指導(パンチカール・パトレケット・カブレ・ラビオピ・バルフ)
2012	・JICA 草の根技術協力事業「丘陵地における自然環境に配慮した循環型農業と景観保護を通じた生計向上」(2012-2017) ・ラブグリーンネパール職員 1 名 日本招聘
2013	・アナイコト有機農業研修センター補修 ・BOP ビジネス調査「ネパール高付加価値農産加工品」(2013-2014)
2014	・相川理事長 ネパール事務所赴任(2014-2017)
2015	・大地震被災者へ緊急支援(テント用ビニールシートの配布) ・ミルク冷蔵センター建設事業(デビタル村)(調布むらさきロータリークラブ)
	4 月 25 日 ネパール大地震発生
2016	・アナイコト村女性グループへ地震後のフォローアップ事業 (2016-2017) ・バネパ市の住民参加型緑化推進事業(2017-2019)(緑の募金)
2017	・JICA 草の根技術協力事業「カブレパランチョク郡パンチカール市における循環型農業を基盤とした土壌改良および人材育成による持続可能な地域の生計向上体制の構築」開始(2017-2022) ・ラブグリーンネパール 事務局長 G.K.サンガット氏逝去
2018	・アナイコト有機農業研修センター改修
2019	・スタディーツアー受け入れ、日本の NGO の現場視察受け入れ
2020	・ネパール・タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる(2020-2022) ・パンチカール市アナイコト地区 家畜飼育支援 ・パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動
2021	・パンチカール市アナイコト地区 家畜飼育支援 ・パンチカール市 環境保全、緑化推進のために公園づくり ・4 月 11 日 理事長 相川政夫逝去

### 理事長 相川 政夫 逝去



2021 年 4 月 11 日、大腸がんで闘病中だった前理事長相川政夫(享年 72 歳)が逝去しました。「またネパールに行くんだ」と最後まで希望を持って回復に努めていました。

設立以来 30 年間、ネパールの村をどうしたらよくなるかを村の人たちと共に考え、現場を第一に活動を牽引してきました。ラブグリーンジャパンの歩みは相川の人生と共にあります。人と人をつなぐのが好きで、「面白いことやろうよ」と多くの人々をネパールの活動に巻き込みました。思いついた活動のアイデアを、必ず「具体的にやってみる」と実行することの大切さを示してくれました。まだまだネパールでやりたいことがあり、新たな挑戦をしていく予定でした。ネパールの人と村を愛した相川の思いを

実現すべく、彼が育ててきた仲間とともに今後も活動していきたいと思えます。

## 実施中プロジェクトの報告

### JICA 草の根技術協力事業 — 独立行政法人 国際協力機構

事業名：カブレパランチョク郡パンチカール市における循環型農業を基盤とした土壌改良および人材育成による持続可能な地域の生計向上体制の構築

昨年11月から、コロナ禍で失職した若年層への就農支援の活動が追加されました。新規就農者への野菜栽培研修やパンチカール市における農産物生産調査などが実施されています。

最近、パンチカール市周辺や首都カトマンズの消費者に向けて、オンラインによるマーケットリサーチを実施しました。また、各区代表の農家で構成する販売促進委員会を作って、カトマンズなどへの安全野菜販売に力を入れています。

### ■ 緑の募金 — 公益社団法人 国土緑化推進機構

事業名：「パンチカール市 環境保全、緑化推進のために公園づくり」（カブレ郡）

配分金額 1864 千円

今年度は地元の若者グループとエコパーク造りに取り組みます。ネパールにまだ公園と呼べる場所は多くはありません。森作りを進め、皆が憩える場、環境保全を学べる場となるように公園を整備します。8月には早速、若者グループが中心になって公園内の植林を実施しました。



### ■ ゆうちょ財団

事業名：アナイコット コロナ禍 低所得 20 世帯への家畜飼育支援による生計向上

配分金額 100 万円

昨年に引き続きアナイコットで家畜飼育支援を実施しています。昨年度の改良家畜小屋（餌場）作りでは、フィールドスタッフの丁寧な指導が好評でした。今年度の改良家畜小屋も着々と設置が進んでいます。牛の餌となる優良牧草も配布できました。これから研修などが行われます。



### ■ 地球環境基金 — 独立行政法人 環境再生保全機構

事業名：タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる活動（マクワンプル郡）

配分金額 290 万円

昨年度実施した、清掃活動や意識啓発などの住民に寄り添った活動により、今まで野晒しだったゴミの集積場を屋根つきの分別できる場所に改修してほしいと要望があるなど、住民の環境保全に対する意識が醸成されつつあります。そのような状況を踏まえて、今年度は昨年度の活動を継続させながら、『分別』をテーマに活動に取り組んでいます。家庭ゴミを分別する研修、

分別した生ごみからコンポストをつくり再利用する研修、さらに家庭で分別されたゴミを適切に管理するためにゴミ集積場を分別場へと改修を行っています。今後は分別したゴミごとのリサイクルシステムを構築することを目指します。

本事業では最終的にエコツーリズムと結びつけることで、環境保全と観光を両立させ、さらに観光による収入の可能性を提示することで、環境保全に対するモチベーションを維持することをねらいます。



現在の集積場



新たな分別場建設現場

### 2020年10月～2021年9月の動き

2020年10月 JICA 草の根技術協力事業 追加支援「コロナ禍における失職した若年層への就農支援」の開始

2020年11月18日 ゆうちょ財団にて活動報告 相川政夫・鈴木倫子

2021年4月11日 前理事長 相川政夫逝去  
ゆうちょ財団支援による「アナイコット コロナ禍 低所得 20 世帯への家畜飼育支援による生計向上」プロジェクトを開始  
地球環境基金の支援による「タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる」環境保全プロジェクト継続  
新理事長 碓 賢治就任

2021年5月 パンチカール市にコロナウィルス緊急対策としてラブグリーンネパールと共同で医療支援を実施

2021年7月11日 コロナ支援「沖縄ネパールプロジェクト」オンラインセミナーにて活動報告及び現地のコロナの感染状況を報告  
緑の募金事業「パンチカール市 環境保全、緑化推進のために公園づくり」開始

2021年9月 ラブグリーンジャパン本部事務所移転

当会の日常活動についてはフェイスブック <ラブグリーンジャパン> でご覧ください。

## 令和2年度 会費納入・募金ありがとうございました。

(2020年10月1日～2021年9月30日)

石原仁事務所/和泉田初代・好一/海老澤健/大石正子/太田輝/鍵谷修/坂本洋子/本間ピアノ  
/ナカザワ包材(株)/久保田直也・洋子/高柳紘子/鶴田厚子/中澤正子/土岐操/成瀬章/  
長谷川潤/細田悦子/佐久間潤/大堀研/宮原靖代/飯島恭子/倉田ローニック/竹田總一郎/  
飯田よし江/三井良子/三田健一・悦子/福田克美/草野明子/吉井万里子/奥津良博/  
中澤庸真/相川次郎/小野文子/中杉淳也/北澤志郎/蛭名喜代作/西村充弘/倉科和子/  
田岡耕司/深江周平/中澤やす子/川戸直樹/草刈信行/碓賢治/隅田一明/甲斐田きよみ/  
岡村健司/鈴木勝雄・芳子/鈴木開・統真/相川明子

他：匿名希望の方 御礼申し上げます。(敬称略)

事務所の引越しなどいろいろお手伝いいただいた方々、ありがとうございました。

**昨年度は会費納入をお忘れの方** がいらっしゃいました。年に一度の**会報**でお知らせしております。

**どうぞ、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。**

**皆様のご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。**

1口 5,000円 1口 以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570  
(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951  
特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

尚 ご意見やご感想なども事務局へ どしどしお送りください。

### 編集後記

30周年を迎える今年4月11日に、この間団体を牽引して来た相川が逝ってしまいました。現地の活動を長年率いてきたラブグリーンネパールのサンガット氏も4年前に他界しています。一緒に祝うべき人がいないのは、何とも寂しいです。私にとって相川は、師であり、同志であり、身近な存在でした。私が悲しみの中にいる時、ネパールの仲間たちは、「自然の摂理」と静かにその死を受け止め、彼の意志を継いで次に向かって動き始めました。30年を振り返れば、ラブグリーンが築いてきたものがあり、人が亡くなっても、それが消えるわけではありません。別れは辛いけれども、彼が私たちに与えてくれた力で、新しいものを作っていこうと思います。ファイト！

SUZ

